

第5期経営改善計画

〔平成26年度～平成30年度〕

平成27年度 実績状況報告書

〔平成27年4月1日から
平成28年3月31日まで〕



公益財団法人 神奈川県下水道公社

目 次

I	経営改善計画取組み項目	2
II	平成 27 年度の取組み実施内容	4
III	計画の進行管理（PDCA サイクルによる見直し）	9

第5期経営改善計画 平成27年度実績状況報告

当公社では、平成26年度から5年間で実施する「第5期経営改善計画（平成26から30年度）」を策定し、さらなる運営の健全化、効率化に向け経営改善計画を推進しています。

平成27年度は第5期経営改善計画の2年目であり、公社の経営方針に基づき、流域下水道の維持管理に関する業務、また、下水道知識の普及・啓発活動及び下水道技術に関する調査研究などを行い、県及び市町の下水道事業に協力し計画に掲げた項目の改善に取り組みました。

平成27年度の実績は、以下のとおりです。

I 経営改善計画取組み項目

第5期経営改善計画は、平成26年度から平成30年度までを計画期間とし、次の5分類、49項目の取組み内容でスタートしました。

分類	改善項目
1 効率的で安定した事業の運営	
(1) 効率的な維持管理による処理費の抑制	<ul style="list-style-type: none"> ① 包括的民間委託の導入 ② 運転管理に関する点検回数の見直し ③ 広場管理人員の削減 ④ 草花管理業務の見直し ⑤ 脱臭用活性炭の一括発注 ⑥ 水処理等監視制御設備点検委託(相模川流域)の一括発注 ⑦ 一括発注の推進 ⑧ 水質分析の一部集約 ⑨ オーバーホールの周期の延伸 ⑩ 汚水ポンプの効率的な運用 ⑪ 最初沈殿池における効率的な運用 ⑫ 老朽化設備の休止による維持管理費用の削減 ⑬ 産業医設置の見直し ⑭ 公用車の軽自動車導入 ⑮ 振込方法の改善 ⑯ 入札制度改革の推進
(2) 施設の老朽化対策	<ul style="list-style-type: none"> ⑰ 設備診断や施設評価 ⑱ 現有施設（機器等）の電子台帳の充実
(3) 安全・安心な下水道	<ul style="list-style-type: none"> ⑲ 事業継続計画（BCP）の策定 ⑳ 水防、水質事故等の配備体制の充実 ㉑ 水防、水質事故等のマニュアルの検証 ㉒ 防災備蓄資器材の見直し ㉓ 実践に即した訓練実施 ㉔ 訓練を通し「使えるマニュアル」に見直し

分 類	改善項目
2 利用者サービスの向上と経営基盤の強化	
(1) 技術支援体制の充実 (アシスト下水道)	②⑤ 関連市町への技術支援 ②⑥ 県、市町職員との定期的な技術交流 ②⑦ 市町下水道担当職員への研修会を開催 ②⑧ 事業場の排水担当者への研修会の開催
(2) 効率的な組織体制・人材育成・調査研究の充実	②⑨ 組織運営体制の見直し ③⑩ 下水道維持管理に精通した人材育成 ③⑪ 公社職員の幹部への登用 ③⑫ 事務職と技術職の交流 ③⑬ 電子決裁の導入 ③⑭ 下水道技術開発のための民間企業との共同研究の取組み及び学術機関との連携 ③⑮ 維持管理上の課題や問題の解決 ③⑯ 長期的視点に立った研究
3 水環境の向上と地球温暖化対策	
(1) 良好な水質の確保と水環境の向上	③⑰ 運転の創意工夫、新技術の導入等の検討
(2) 地球温暖化対策と環境対策	③⑱ 臭気対策への取組み ③⑲ 焼却灰のリサイクル ④⑰ 廃棄文書等のリサイクル ④⑱ 廃熱の利用等
(3) 省エネルギー対策への取組み	④⑲ 最新の技術や実績を調査し、導入に向け県へ技術提案
4 地域・県民との連携による普及啓発	
	④⑳ 下水道ふれあいまつりの拡充 ④㉑ 夏休み下水道教室の拡充 ④㉒ 出張教室の拡充 ④㉓ 市町開催環境イベントへの積極的参加 ④㉔ インターネットを活用した広報活動
5 快適に安心して働ける職場環境	
	④㉕ メンタルヘルスケア ④㉖ リフレッシュ休暇導入の検討

II 平成 27 年度の取組み実施内容

平成 27 年度に取組んだ分類ごとの主な実施内容は、次のとおりです。

〔取組み実施内容〕

1 効率的で安定した事業の運営	
(1) 効率的な維持管理による処理費の抑制	創意工夫により効率的に運転管理を行い処理費を抑制するため、一部の処理場への包括的民間委託の導入、施設運用の効率化、委託業務内容や設計基準の見直し、また、業務の一括発注などを継続して取組みました。
(2) 施設の老朽化対策	設備診断計画を策定し、計画に基づく健全度診断を開始しました。
(3) 安全・安心な下水道	災害時の課題を想定した訓練を実施し、マニュアルや体制の見直しに取組みました。 神奈川県 BCP との連携を図るとともに、訓練結果を反映した「神奈川県下水道公社業務継続計画 (BCP)」を策定しました。

2 利用者サービスの向上と経営基盤の強化	
(1) 技術支援体制の充実 (アシスト下水道)	市町が行う流域関連公共下水道の特定事業場等監視・指導や施設検査などの技術支援を継続して行いました。 また、県内市町下水道担当職員と事業場排水担当者の技術力向上を目的とした研修会を開催しました。
(2) 効率的な組織体制・人材育成・調査研究の充実	熟練職員と若手職員が連携して取組む体制を構築し、OJT を通じた人材の育成に努めました。 また、維持管理上の課題の解決や経費縮減の視点に立った調査研究に取組みました。

3 水環境の向上と地球温暖化対策	
(1) 良好な水質の確保と水環境の向上	効率的な硝化促進運転を行い良好な放流水質の確保と、水環境の向上に貢献しました。
(2) 地球温暖化対策と環境対策	環境に配慮した次世代型焼却炉の運用を開始し、電力や温室効果ガスの削減などに取り組みました。 また、廃棄文書のリサイクルに取組み、環境への配慮に努めました。
(3) 省エネルギー対策への取組み	電力削減を目的として、(公財)日本下水道新技術機構との共同研究に着手しました。

4 地域・県民との連携による普及啓発	
	地域に親しまれる下水道や下水道の「みえる化」を目指し地元自治会や事業者等と協働した下水道ふれあいまつりの企画・運営を行いました。 また、下水道教室の実施方法等を工夫したり、市町が開催する環境等に関するイベントへ積極的に参加しました。

5 快適に安心して働ける職場環境	
	安心して働ける職場環境作りのため、ストレスチェック制度の導入に向けた検討を行いました。

〔平成27年度実績集計表〕

表中の番号は「第5期経営改善計画 6 具体的施策」で数値目標を定めた項目で、平成27年度の実績集計は次のとおりです。

○経費縮減の数値目標に対する取組み結果

1 効率的で安定した事業の運営							
(1) 効率的な維持管理による処理費の抑制							
項目	縮減額（単位：千円）						
	年度 目標 実績 達成率	26	27	28	29	30	計
① 包括的民間委託の導入	目標	△20,035	△20,035	△20,035	△20,035	△20,035	△100,175
	実績	△20,035	△20,035				△40,070
	達成率	100%	100%				40%
② 運転管理に関する点検回数の見直し	目標	△29,100	△29,100	△29,100	△25,100	△25,100	△137,500
	実績	△29,100	△29,100				△58,200
	達成率	100%	100%				42%
③ 広場管理人員の削減	目標	△3,499	△3,499	△3,499	△3,499	△3,499	△17,495
	実績	△3,774	△3,789				△7,563
	達成率	108%	108%				43%
④ 草花管理業務の見直し	目標	△1,500	△1,500	△1,500	△1,500	△1,500	△7,500
	実績	△1,500	△1,500				△3,000
	達成率	100%	100%				40%
⑤ 脱臭用活性炭の一括発注	目標	△9,707	△9,707	△9,707	△9,707	△9,707	△48,535
	実績	△10,520	△11,020				△21,540
	達成率	108%	114%				44%
⑥ 水処理等監視制御設備点検委託(相模川流域)の一括発注	目標	△3,600	△3,600	△3,600	△3,600	△3,600	△18,000
	実績	△3,990	△3,870				△7,860
	達成率	111%	108%				44%
⑧ 水質分析の一部集約	目標	△348	△348	△348	△348	△348	△1,740
	実績	△348	△348				△696
	達成率	100%	100%				40%

項目	縮減額（単位：千円）						
	年度 目標 実績 達成率	26	27	28	29	30	計
⑨ オーバーホールの周期の延伸	目標	△6,070	△9,800	△15,160	△19,850	△23,790	△74,670
	実績	△6,410	△10,770				△17,180
	達成率	106%	110%				23%
⑩ 汚水ポンプの効率的な運用	目標	△4,096	△4,096	△4,096	△4,096	△4,096	△20,480
	実績	△3,684	△3,655				△7,339
	達成率	90%	89%				36%
⑪ 最初沈殿池における効率的な運用	目標	△57	△57	△57	△57	△57	△285
	実績	△84	△84				△168
	達成率	147%	147%				59%
⑫ 老朽化設備の休止による維持管理費用の削減	目標	△22,000	△8,663	△11,995	△16,924	△8,654	△68,236
	実績	△22,000	△8,663				△39,663
	達成率	100%	100%				45%
⑬ 産業医設置の見直し	目標	△720	△720	△720	△720	△720	△3,600
	実績	△720	△360				△1,080
	達成率	100%	50%				30%
⑭ 公用車の軽自動車導入	目標	△70	△120	△120	△120	△120	△550
	実績	△117	△201				△318
	達成率	167%	168%				58%
⑮ 振込方法の改善	目標	△316	△316	△316	△316	△316	△1,580
	実績	△95	△247				△342
	達成率	30%	78%				22%
縮減額計	目標	△101,118	△91,561	△100,253	△105,872	△101,542	△500,346
	実績	△102,377	△93,642				△196,019
	達成率	101%	102%				39%

○経費縮減以外の数値目標に対する取組み結果

1 効率的で安定した事業の運営						
(2) 施設の老朽化対策						
項目	年度	26	27	28	29	30
⑰ 設備診断や施設評価	目標	10%	30%	50%	75%	100%
	実績	10%	30%			
(3) 安全・安心な下水道						
項目	年度	26	27	28	29	30
⑱ 事業継続計画(BCP)の策定	目標	30%	100%	—	—	—
	実績	30%	100%	—	—	—

3 水環境の向上と地球温暖化対策						
(2) 地球温暖化対策と環境対策						
項目	年度	26	27	28	29	30
⑳ 焼却灰のリサイクル	目標	100%	100%	100%	100%	100%
	実績	100%	100%			

4 地域・県民との連携による普及啓発							
項目	年度	26	27	28	29	30	計
④④ 夏休み下水道教室の拡充	目標	3回	3回	3回	4回	4回	17回
	実績	3回	3回				6回
④⑤ 出張教室の拡充	目標	21回	21回	21回	22回	22回	107回
	実績	21回	21回				42回
④⑥ 市町開催環境イベントへの積極的参加	目標	6回	6回	6回	6回	6回	30回
	実績	10回	12回				22回

Ⅲ 計画の進行管理（PDCA サイクルによる見直し）

1 進行管理

各項目の取組み結果については、PDCA サイクルによる継続的な見直しを行うこととして
います。

計画の実施にあたっては、計画〔Plan〕に基づき実行〔Do〕し、取りまとめた結果につ
いて評価〔Check〕し、更なる改善〔Action〕に取組みました。

2 評価〔Check〕及び改善〔Action〕

平成 27 年度の取組み結果に関する評価〔Check〕及び改善〔Action〕は、次のとおりで
す。

(1) 経費縮減に関する取組み

経費縮減に関する取組みについて、平成 27 年度は、14 項目のうち 11 項目で目標を達
成し、102%の達成率となりました。

この取組みの中で、特に未達項目と目標額の見直しを行った項目の評価・改善及び見直
し内容は、次のとおりです。

[評価及び改善の内容]

ア 未達項目

未達項目の評価及び改善は、次のとおりです。

取組み項目名	取組み内容	目 標	評 価 (未達理由)	改 善 (改善内容)
		実 績		
		達成率		
⑩ 汚水ポンプの効率的な運用	柳島及び酒匂管理センターの汚水ポンプのポンプ井の水位を上げて運転し、汲み上げる水の高さを小さくすることで使用電力量を少なくし経費の縮減を図ります。	△4,096 千円	晴天時にポンプ井の水位を上げる運転の実施による経費の縮減については、降雨日数が多かったことや工事により水位を上げた運転ができなかったことにより、目標額に達しませんでした。	雨天時溢水のリスク回避に努めながら継続的にポンプ井の水位を上げた運転に取り組んできました。 しかし、年度により天候や工事の状況が異なるため、最新の実績を基に目標額を見直します。 見直した目標額は、次のとおりです。 △3,084 千円/年度 (平成 28~30 年度)
		△3,665 千円		
		89%		
⑬ 産業医設置の見直し	四之宮事業場の従業員が 50 人未満であり、法的には産業医の設置義務がないため産業医の設置を廃止することにより経費の縮減を図ります。	△720 千円	法律に基づく産業医の設置により、目標額に達しませんでした。	本取組みが経費縮減にあたらなくなったことから、平成 28 年度から本取組みを計画から外すこととします。
		△360 千円		
		50%		
⑮ 振込方法の改善	支払業務において、振込用紙を使用した振込方法から、振込手数料が安価な電子データを用いた振込方法に変更することにより経費の縮減を図ります。	△316 千円	振込件数が大幅に減少したことから、目標額に達しませんでした。	振込件数の実績を基に目標額を見直します。 見直した目標額は、次のとおりです △237 千円/年度 (平成 28~30 年度)
		△247 千円		
		78%		

イ 目標額の見直しを行った項目

達成項目のうち目標額の見直しを行った項目の見直し内容は、次のとおりです。

取組み項目名	取組み内容	見直し内容	見直し後の目標額
⑨ オーバーホールの周期の延伸	設備・機器ごとに異なる設置環境や使用実績を踏まえて、オーバーホールの周期を延長し、点検費用の縮減を図るものです。	本項目は、平成 26 年度及び平成 27 年度とも目標額を達成しました。 なお、一部の設備・機器のオーバーホールは、地震対策工事と合わせて行うことで経費縮減となることから前倒しで実施しました。 その結果、前倒しで行ったオーバーホールの設備・機器については、本計画期間内に縮減効果が発生しないことから目標額から減じました。 また、取組み対象の設備・機器で周期延長が可能なものは、更に周期を延長しました。	平成 28 年度 △13,550 千円 平成 29 年度 △16,300 千円 平成 30 年度 △20,470 千円 〔参考〕当初目標額 平成 28 年度 △15,160 千円 平成 29 年度 △19,850 千円 平成 30 年度 △23,790 千円

(2) 経費縮減以外の取組み

経費縮減以外には、効率的な組織体制、施設の老朽化対応、危機管理体制の強化、環境への配慮、流域市町への技術支援及び効果的な普及啓発活動などに取組み、概ね計画通りに取組むことができました。

3 PDCA サイクルによる見直し結果（平成 27 年度）

全 49 項目を PDCA サイクルにより見直しました。

「2 評価及び改善」に記載したとおり、3 項目については目標額を見直し継続して取り組むこととしました。

また、1 項目については、経費縮減にあたらなくなったことから計画から外すこととしました。

次年度についても、各項目の達成に向け取り組んでまいります。

4 新規項目の追加（平成 28 年度）

平成 28 年度は、次の 2 項目を追加し取り組んでいくこととしました。

○追加項目

取組み項目名	取組み内容
⑩ 焼却炉の点検に関する積算基準の見直し	全焼却炉の効率的な点検について検証し、外観目視点検の積算基準を見直しました。 目標額 △2,040 千円/年度（平成 28 年度） △2,922 千円/年度（平成 29～30 年度）
⑪ 加除式書籍の追録廃止	法令改正時の加除式書籍の追録購入は、改正した法令をインターネットで確認可能なことから、経費縮減を図るため追録を廃止します。（以前から追録を一部廃止し経費縮減に取り組んでいましたが、今回全面廃止としました。） 目標額 △537 千円/年度（平成 28～30 年度）

- PDCA サイクルにより見直した結果及び新規項目の追加を踏まえ、平成 28 年度からは、当初取組みの 49 項目から 1 項目を外し 2 項目を追加した、次表のと通りの 50 項目で取組んでまいります。

分 類	改善項目
1 効率的で安定した事業の運営	
(1) 効率的な維持管理による処理費の抑制	<ul style="list-style-type: none"> ① 包括的民間委託の導入 ② 運転管理に関する点検回数の見直し ③ 広場管理人員の削減 ④ 草花管理業務の見直し ⑤ 脱臭用活性炭の一括発注 ⑥ 水処理等監視制御設備点検委託(相模川流域)の一括発注 ⑦ 一括発注の推進 ⑧ 水質分析の一部集約 ⑨ オーバーホールの周期の延伸 ⑩ 汚水ポンプの効率的な運用 ⑪ 最初沈殿池における効率的な運用 ⑫ 老朽化設備の休止による維持管理費用の削減 ⑬ [平成 28 年度削除] ⑭ 公用車の軽自動車導入 ⑮ 振込方法の改善 ⑯ 入札制度改革の推進 ⑰ 焼却炉の点検に関する積算基準の見直し [平成 28 年度追加] ⑱ 加除式書籍の追録廃止 [平成 28 年度追加]
(2) 施設の老朽化対策	<ul style="list-style-type: none"> ⑲ 設備診断や施設評価 ⑳ 現有施設（機器等）の電子台帳の充実
(3) 安全・安心な下水道	<ul style="list-style-type: none"> ㉑ 事業継続計画（BCP）の策定 ㉒ 水防、水質事故等の配備体制の充実 ㉓ 水防、水質事故等のマニュアルの検証 ㉔ 防災備蓄資器材の見直し ㉕ 実践に即した訓練実施 ㉖ 訓練を通し「使えるマニュアル」に見直し

分 類	改善項目
2 利用者サービスの向上と経営基盤の強化	
(1) 技術支援体制の充実 (アシスト下水道)	②⑤ 関連市町への技術支援 ②⑥ 県、市町職員との定期的な技術交流 ②⑦ 市町下水道担当職員への研修会を開催 ②⑧ 事業場の排水担当者への研修会の開催
(2) 効率的な組織体制・人材育成・調査研究の充実	②⑨ 組織運営体制の見直し ③⑩ 下水道維持管理に精通した人材育成 ③⑪ 公社職員の幹部への登用 ③⑫ 事務職と技術職の交流 ③⑬ 電子決裁の導入 ③⑭ 下水道技術開発のための民間企業との共同研究の取組み及び学術機関との連携 ③⑮ 維持管理上の課題や問題の解決 ③⑯ 長期的視点に立った研究
3 水環境の向上と地球温暖化対策	
(1) 良好な水質の確保と水環境の向上	③⑰ 運転の創意工夫、新技術の導入等の検討
(2) 地球温暖化対策と環境対策	③⑱ 臭気対策への取組み ③⑲ 焼却灰のリサイクル ④⑰ 廃棄文書等のリサイクル ④⑱ 廃熱の利用等
(3) 省エネルギー対策への取組み	④⑲ 最新の技術や実績を調査し、導入に向け県へ技術提案
4 地域・県民との連携による普及啓発	
	④⑳ 下水道ふれあいまつりの拡充 ④㉑ 夏休み下水道教室の拡充 ④㉒ 出張教室の拡充 ④㉓ 市町開催環境イベントへの積極的参加 ④㉔ インターネットを活用した広報活動
5 快適に安心して働ける職場環境	
	④㉕ メンタルヘルスケア ④㉖ リフレッシュ休暇の普及